

差別心の正体

年齢とともに、食欲は細くなり、性欲も枯れていきます。

しかし、それとは逆に膨らんでゆく欲があります。

それが、「承認欲求」です。

人間は、誰かに認めてもらいたい。自分の人生を褒めてもらいたい。

無視されるのは嫌だ。認めてほしい。

この切実な欲求が満たされないとき、私たちはどうなるでしょうか。

例えば、学校や仕事や家庭で居場所がなく、誰からも評価されないと
感じている人がいるとします。

自分の無力感に耐えきれなくなったとき、人はどこを見るでしょうか。

人は、「下」を見るのです。

SNS で見知らぬ他人の失敗を叩いて「自分の方がましだ」と胸をなで下ろしたり、職場や身近なコミュニティで自分より立場が弱い人、少数者のあら探しをして「あいつらよりは上だ」と優越感に浸ったりする。

自分を認めてもらえない痛みを、自分より下を作り出すことで埋め合わせようとする。

それこそが、差別の正体にほかなりません。

差別心をなくすためには、人間の尊厳を認めあうことが必要です。

真理を語るスカート館長 奥 昌幸